**森林や林業に対する意識の変容と教育内容の検討**
**～青森市と外ヶ浜町の小中学生を対象とした森林教室を通して～**

東北森林管理局　青森森林管理署　一般職員　齋　つかさ

## １　課題を取り上げた背景

当署では、地域の小中学生に対し、年に数回森林環境教育のイベントを実施しています。令和３年度に行った森林教室では、参加者体験型の紙芝居を作成し、林業のサイクルや森林の働きについて説明しました（写真１）。

（写真１：森林教室の様子）

そこで、この内容をより良いものにするためには、教育内容が参加者に与える影響を知る必要があると考え、参加者に対してアンケート調査を行い、教育内容の検討を行いました。

## ２　取組の方法

令和３年度のイベントに参加した小中学生を対象に、イベントの実施前と実施後にアンケート調査を行いました。県庁所在地である青森市の小学校２校と、森林の割合が 89%を占める外ヶ浜町の小中学校３校の、延べ 341 名に調査にご協力いただきました。

アンケートの調査用紙は、「森林や林業への認識」を問う４項目、「自然環境への感受性・認識・意欲」を問う 13 項目（表１）、「自然体験の経験」を問う 11 項目の質問で構成し、自由記述や選択肢から選ぶ回答方式で、５～10 分程度で回答できるものを用意しました。実施前後で同じ質問に回答してもらい比較を行うことで、教育内容が参加者に与えた影響を調べました。

## ３　実行結果

「森林や林業への認識」を問う自由記述の質問「森の木を切ることについてどう思いますか？」について、実施前には参加者の約 55%が「自然破壊になる」等の否定的意見を持っていましたが、実施後には否定的意見の割合が約 16%まで減少しました。

また、「自然環境への感受性・認識・意欲」を問う質問については、「よくあてはまる」から「全くあてはまらない」までの４段階の選択肢から回答してもらい、13 項目中３項目で意識の変容が確認されました（表１）。さらに、学校別に集計を行った結果、学校の所在地によって意識変容の傾向に違いがあることが分かりました。

（表１：「自然環境への感受性・認識・意欲」を問う質問項目）

| 質問項目の内容 |
|---|
| 感受性 |
| 森へ行くことが好きだ |
| **森は暗くて怖いところだ** |
| 自然の中の活動は気持ちがいい |
| 草花や自然の景色を見て感動することがある |
| 自分の住む町の自然が好きだ |
| **森の木を切るのはかわいそうだ** |
| 認識 |
| 森の生き物のことをよく知っている |
| **森の木を切ってもよい時がある** |
| 自然と人間の生活には深いつながりがある |
| 森は人間にとって必要な存在だと思う |
| 意欲 |
| 環境問題に興味・関心がある |
| 自然を守るために何かしたい |
| 将来、自然や環境に関わる仕事をしたい |

※意識変容が確認されたものは太字で表記

## ４　考察

アンケート調査の結果から、森林教室の内容が、参加者の「森林への恐怖感」や「木を切ることへの認識」に変化をもたらしたことが分かりました。

一方で、「森へ行くことが好きだ」等の自然環境へのプラスの感情について意識の変容が確認されなかったことから、知識を一方的に伝えるだけでなく、森林散策の時間を設ける等、参加者に自然で過ごすことの楽しさを感じてもらえる内容を追加する必要があると考えられます。

また、学校の所在地等の参加者の属性によって意識変容に違いが見られたため、参加者に合わせた教育内容を検討する必要があると考えられます。事前アンケートや学校の先生方との打合せを通し、より参加者のためになる内容を検討していきたいと思います。